

手動まき割り機発売

岡谷の曾根鉄工房と Lab 72



曾根鉄工房とLab72が共同開発した手動式のまき割り機

直径40cm以上、節にも対応

鉄工芸品製造の曾根鉄工房(岡谷市赤羽)と機械設計のLab72(岡谷市長地)は、手動式のまき割り機を製品化した。破壊力を向上させるために本体部分の強度を高め、おで割ることが困難だった直径40センチ以上の丸太や、節がある木材に対応する実用的なまき割り機に仕上げた。(唐沢宏)

まき割り機は鉄製で長さ約1.45メートルの木材に対応する。まき割り機は約50センチ、長さ40センチストロークユーザーの声を聞

き、太い木材を割ることができ、最大の荷重150キログラムの油圧ジャッキ(荷重可能)を搭載。積み下ろしで腰を痛めないよう、斜めに置いて使用する最適形状に絞り込んだ。

両社は針葉樹に対応するまき割り機「型」を共同開

発中。性能試験に使うまきは知人などからもらい、おで割っているが、太い木材が多くなり、まき割り機の必要性を感じていたという。Lab72の村本治一社長(6)と、曾根鉄工房の曾根孝一郎社長(37)が試行錯誤を重ねて完成させた。

価格は7万5000円(油圧ジャッキ含む)。受注生産で、規格の変更も可能。村本社長と曾根社長は「最初は本体の強度が足りず、力が集中する場所を調べて補強した。

まき割り機には電気式やエンジン式があるが、経済的で自然に優しい手動式を採用してもらえたら」と話している。

問い合わせは、曾根鉄工房(電話22・3188)へ。